

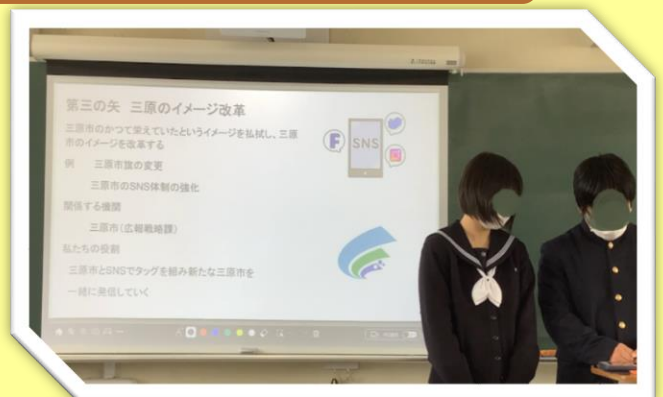
※堅志学とは三原高校における「総合的な探究の時間」の呼称です。

2月16日（水）に、1・2年生が堅志学で行った研究成果や1年間取組んだプロジェクトの成果報告会を実施しました。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会場を分散し、外部への公開はオンラインで実施しました。

授業の風景や生徒の学びの様子

1年生

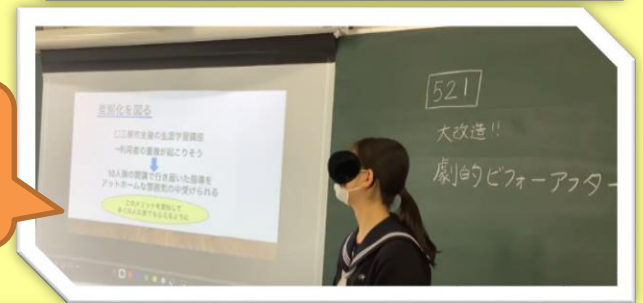
SDGsについて学習した視点を生かして、「三原市が持続可能な都市として発展するためにはどうしたらいいのか？」という課題意識の下で探究を行いました。その成果を「2030年三原〇〇な街プロジェクト」として三原市の岡田吉弘市長をはじめとした市職員の方々に対してスライドで発表しました。



2年生

1年間、5つのプロジェクトに分かれて取組んだ研究の成果を、32のグループがポスターやPowerPoint、制作動画の方で報告しました。

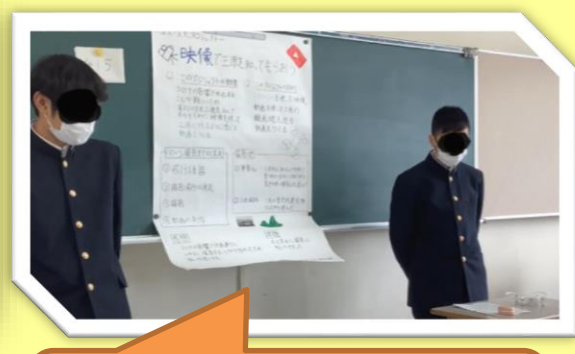
駅前の空き家（〇〇邸）活用「劇的ビフォーアフター」（〇〇は実名）



障がい者の社会自立支援
「〇〇さんパン屋開業への道」
（〇〇は実名）



童話から学ぶ現代の司法制度
「今こそ決断を下すとき」



自分達でドローンを買って撮ろう
「映像で三原を知ってもらおう」
（本当に生徒が自分でドローンを用意しました）

【講評の内容（一部）】

- 課題は自分の身近にたくさんある。コピペで取り繕うことも簡単だが、調べたことを「なぜそうなるのか？」と疑問をもつことが大切。
- 「考える」ことに加えて実際に「行動する」ことが大切。動くことで皆さん一人一人の自信になる。それが次の課題解決につながる。



2年生のプロジェクトについて、広島大学の渡辺巧先生、三原市の岡田吉弘市長から参観者を代表して講評をいただきました。